

調査速報

タイ自動車市場月次統計（2017年3月）

減少止まらぬ輸出台数は年率100万台割れ一歩手前。  
 内需回復を帳消しにして生産は年率190万台割れ続く。

主任研究員  
 深尾 三四郎  
 045-225-2375  
[fukao@yokohama-ri.co.jp](mailto:fukao@yokohama-ri.co.jp)

要約

- 3月国内生産台数（季調値）は前月比5.5%増の年率186.3万台。前年実績を下回る状況が続き低水準。
- 同月輸出台数は同9.4%減の年率101.8万台と5か月連続で120万台を下回り、100万台割れ寸前の状況。
- 一方、内需回復は続く。国内販売台数は同2.3%増の年率90.2万台と15か月ぶりに90万台超えで堅調。

輸出減少が止まらない。内需回復が続いているが、タイ自動車生産の見通しは楽観できる状況ではない。

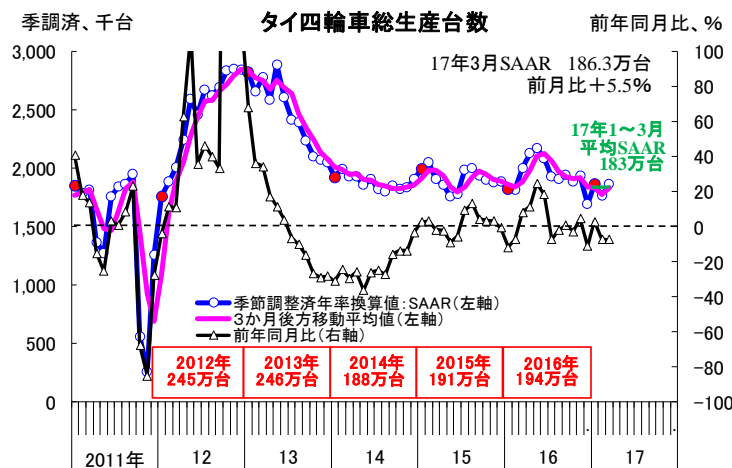
タイ工業連盟（Federation of Thai Industries）が発表した2017年3月の四輪車総生産台数は、前年同月比7.3%減と2か月連続で前年割れとなった。季節調整済年率換算値（当社試算、以下SAAR）は前月比5.5%増の186.3万台となったが、昨年実績194万台を下回る状況で低空飛行が続いている（図表1）。

輸出台数の下落トレンドが止まらない。3月の総輸出台数は前年同月比3.1%減と9か月連続で前年割れとなり、SAARも前月比9.4%減の101.8万台と5か月連続で120万台を下回っている上に、100万台割れ一歩手前で極めて低い水準にまで落ち込んでいる（図表2）。中近東での景気悪化が大きな逆風となっている。3か月後方移動平均値でみたトレンドは下落基調が続いており、底が見えない深刻な状況である。

一方、内需回復は続いている。3月の国内販売台数は前年同月比16.7%増と3か月連続の2桁%増となり、SAARも前月比2.3%増の90.2万台と2か月連続で増加した（図表3）。国内販売が年率90万台を超えたのは15か月ぶりのことである。3月の消費者信頼感指数が昨年12月から4か月連続の上昇となるなど消費ムードは緩やかながらも改善の動きが続いており、これが内需回復の下支えとなっている（図表4）。

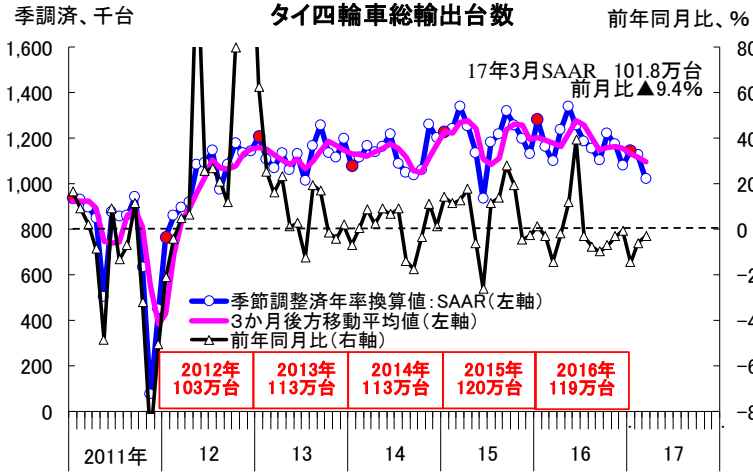
タイに製造・販売拠点を持つ自動車関連上場企業の多くは、4月下旬から16年度の決算発表を行う。ASEANの中核市場であるタイでの新年度の事業については、輸出減速に伴い国内生産の下方圧力が高まることから、保守的な収益見通しがコメントされる可能性が高い。完成車の国内販売が回復しているという点を取り上げる企業もあろうが、そのような企業に対しては、ピックアップトラック市場の価格競争激化と高収益である同セグメントの販売構成比が低下する（＝収益性で劣る乗用車の新型車投入が増える）といった市場全体で収益性が悪化する懸念が高まる中で、合理化の推進、新製品の投入や新規顧客の開拓などによる拡販といった収益拡大策を実行・計画しているのかに注目したい。

図表1 3月国内生産（SAAR）は反転増加するも年率190万台割れで低水準



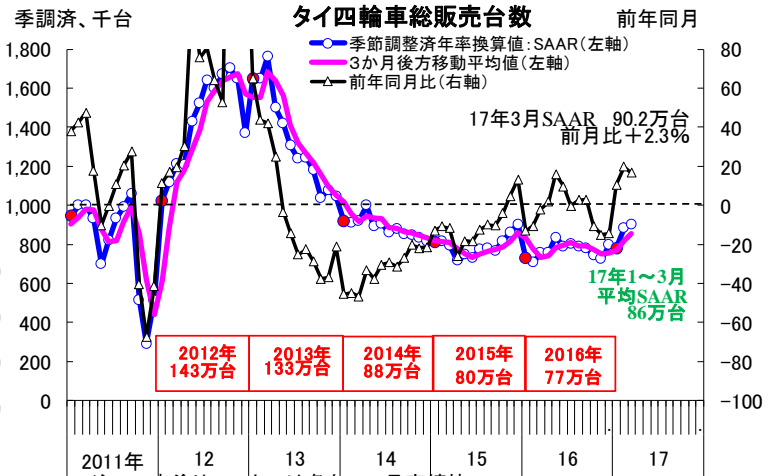
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
 注2：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
 出所：Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表2 輸出台数 (SAAR) の下落トレンド続く



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
 出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

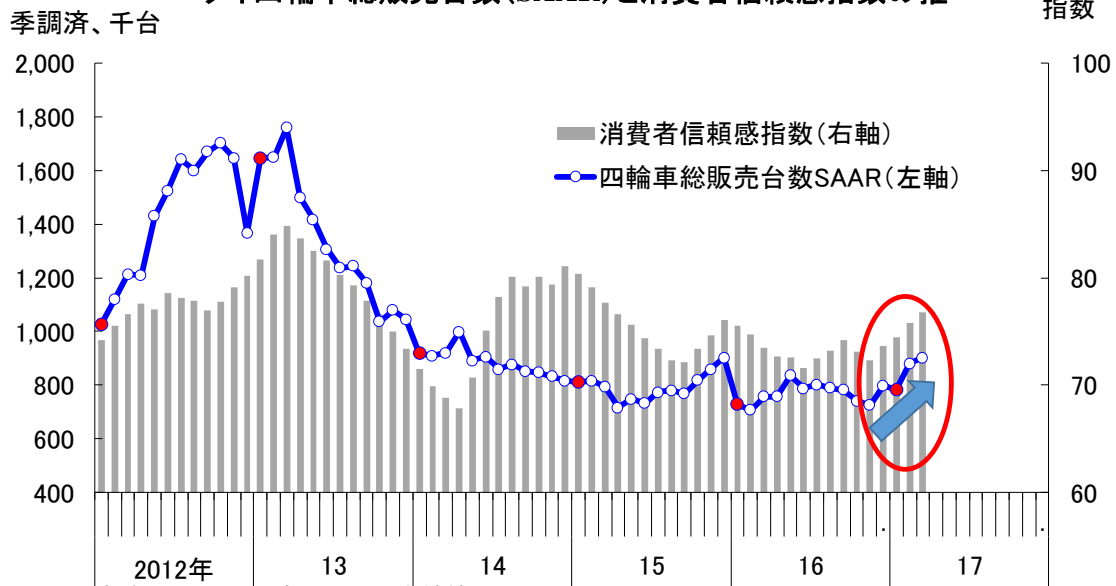
図表3 国内販売は2か月連続の増加で堅調



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
 出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表4 3月の消費者信頼感指数は4か月連続の上昇

タイ四輪車総販売台数(SAAR)と消費者信頼感指数の推



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
 出所: Federation of Thai Industries、University of the Thai Chamber of Commerceのデータを基に作成

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。